

ほか ワンセグ 高瀬の 番組チェック



文：高瀬徹朗 Takase Tetsuro

本誌放送アナリスト・ワンセグウォッチャー

米国で発売された「Google TV」が気になって仕方がない。YouTubeとの連動、という採め事の種はともかく、テレビ画面上でニュースを見たり天気予報を見たり、スポーツ中継でスコアを確認したり……と、データ放送で可能なサービスが多数含まれているからだ。これがデータ放送流行のきっかけとなるか、それともますます使われなくなるのか。そんなことを考えると、正月から眠れない夜が続きます。それではワンセグチェック、スタート。

年始恒例『箱根駅伝』

12セグデータ放送でも ユニークな取り組み

ワンセグは完璧な内容

東京箱根間往復大学駅伝競走、通称「箱根駅伝」は、いまや年始最大の人気コンテンツと言っている。個人的には例年、仕事抜きにもっともワンセグデータ放送を活用する番組である。

その素晴らしさは、なんといっても情報量の豊富さと情報更新の細かさ。チェックポイントごとに通過順位、通過タイム、区間ごとの細かい個人成績などが表示されるほか、過去のチェックポイント通過タイムも簡単に確認可能だ。これならば、放送で紹介されていない大学の状況も正確に把握することができる。もちろん、すべて放送経由のデータ放送であるため輻輳はなし、ストレスなく情報をチェックすることができる。データ放送の利点を最大限に活かし、インターネットに頼らずの仕様となっている。

ワンセグ初期から高い完成度を誇っており基本的に文句はないが、難点を言えば「お気に入り大学登録」をもう少し意味あるものにしてほしい、というくらいだろうか。せっかく登録しても、せいぜい色付きで大学名が表示される程度で、使い勝手はさほど変わらない。一斉同報の放送サービスにパーソナル性を求めるのは酷というものだが、多少通信を絡めるなどして「お気に入り登録」の価値を高めなければ、逆にネガティブなイメージをもたれてしまう危険性もある。もっとも、通信を絡めることでストレスフリーの特徴が損なわれる可能性もあり、この辺りは難しい判断になる。

繰り返すが基本的に完成度は高く、レース中継を補足し、さらに楽しみを高めることのできる素晴らしい連動データ放送と言える。これをもって完成とするのか、はたまた更なる高みを目指すのか。あらためて担当者に話を聞いてみたいところだ。

12セグでは参加型コンテンツも

12セグデータ放送もワンセグ同様、ポイント通過タイムなどの記録情報提供がメイン。大きく違うのは、別コンテンツとして「箱根駅伝プレゼントラリー」を用意している点だ。

「箱根駅伝プレゼントラリー」は、簡単な視聴者参加型ゲーム。指示のあったタイミングに合わせてリモコン青ボタンを押していくスタンプラリー形式のゲームで、常時、データ放送を表示させておく狙いが見える。

内容的には駅伝に見立てたゲームで、ボタンを押してアイテムを獲得するとキャラが前進、最終的に完走を目指す。アイテムが出るタイミングはランダムだが、本線音声とは別にチャイムが鳴るため、レース観戦に集中していても気が付くことができる。

が、アイテムの中には位置を後退させるものもあり、ルールを読まずに取り組みむと失敗する。また、箱根駅伝にちなんだ4択クイズが時折出題され、正解すると大きく前進することができるようだ。問題は案外難しく、よほどのマニアでなければ勘で答えるしかないレベルだ。

区間をクリアするとパスワードが表示され、携帯サイトから応募することができる。完走すると大型テレビが当たるようだが、



ワンセグデータ放送の「お気に入り大学登録」した画面例



12セグデータ放送の「箱根駅伝プレゼントラリー」の画面例

区間ごとのクリアに対しても汎用的なグッズが用意されている。結線が必要としない仕組みとしているのは、参加の敷居を下げることを考えたらやむを得ない。

画面下部に表示されたアニメーションなどのデザイン面含め完成度は高く、内容的にもおもしろい。最大の難点はレース情報が表示されるトップ画面とは完全別画面となっていること。アイテムを獲得しても進める距離はシビアで、表示タイミングもランダムなので、うかつに表示を切り替えることができない。

ワンセグデータ放送を使えば問題はないが、さすがにレースを見ながらゲームに参加してワンセグ連動を確認する、というのは忙しい。レース観戦はそこそこで、という「ライト駅伝ユーザ向けサービス」と割り切れば悪くないかもしれない。

